



■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■バージョン: CASBEE横浜2017年版v.1.7

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)横浜プロジェクト	階数	地上9F
建設地	横浜市西区戸部本町59番地他17筆	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	170 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 予定	評価の実施日	2021年3月10日
敷地面積	1,001 m ²	作成者	株式会社NEXT ARCHITECT & ASSOCIATES 一級建築士事務所 梅村剛
建築面積	641 m ²	確認日	2021年3月15日
延床面積	4,654 m ²	確認者	株式会社NEXT ARCHITECT & ASSOCIATES 一級建築士事務所 梅村剛



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 82%
③上記+②以外の 82%
④上記+ 82%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 高性能の断熱材を積極的に採用し、専有部の全住戸が断熱等性能等級4を満たす仕様とすることで、環境負荷低減を図った。	その他 特に無し	
Q1 室内環境 専有部には自然換気が十分に確保できる大きさの窓を確保し、快適性の向上及び自然エネルギーの積極的利用を図った。また、F☆☆☆☆の部材を積極的に採用し、居住環境の向上を図った。	Q2 サービス性能 配管材料については耐久性の優れた材料を採用し、維持管理が容易な室の配置計画及び材料の選定を行うことで、性能が長期間にわたり保たれるように配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 建物の配置計画については、道路から極力距離を設けることで周囲に圧迫感を与えないように配慮し、また道路沿いに緑化を設けることで、周囲に溶け込むように計画を行った。
LR1 エネルギー 建物内設備にはLED照明等の高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。	LR2 資源・マテリアル 外壁の吹付断熱材についてはノンフロンであるA種1Hを採用し、環境負荷低減に寄与するとともに、外壁の下地はLGSとすることで、将来の更新及び修繕の計画が容易となるように配慮した。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を低く抑えることにより、長期にわたり環境負荷を軽減し地球温暖化の防止に付与できる建物となるように配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

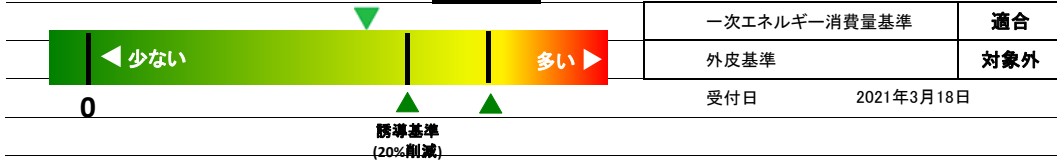
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)横浜プロジェクト

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 4

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 30 %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①(専有部)断熱等性能等級4を満たす

③BEI=0.94,BEI_m=0.70

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 2

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑪F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用している

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯給排水管について、耐用年数の高いものを採用している

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
エネルギーマネジメントシステム導入	



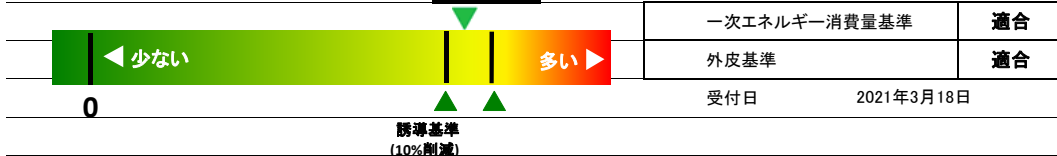
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 (仮称)横浜プロジェクト

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 2

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **6** %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①(専有部)断熱等性能等級4を満たす

③BEI=0.94,BEIm=0.70

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 4

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

⑥日本住宅性能表示基準「6-1ホルムアルデヒド対策(内装及び天井裏等)」における等級3

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑰給排水管について、耐用年数の高いものを採用している

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入 環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入

— — —



CASBEE横浜2017年版v.1.7

(仮称)横浜プロジェクト

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境					0.40					3.3
1 音環境				2.9	0.15	3.6	1.00			3.3
1.1 騒音				3.0	0.48	3.0	0.50			-
1.2 遮音				3.0	0.48	4.3	0.50			-
1 開口部遮音性能				3.0	0.92	5.0	0.30			-
2 界壁遮音性能				3.0	0.08	4.0	0.30			-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	4.0	0.20			-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	4.0	0.20			-
1.3 吸音				1.0	0.04	-	-			-
2 温熱環境				2.6	0.35	4.0	1.00			3.5
2.1 室温制御				3.0	0.50	4.0	1.00			-
1 室温	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.58	-	-			-
2 外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.35	4.0	1.00			-
3 ソーン別制御性	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.07	-	-			-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	1.0	0.20	-	-			-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.30	-	-			-
3 光・視環境				1.5	0.25	3.0	1.00			2.4
3.1 星光利用				1.8	0.30	2.0	0.50			-
1 星光率	快適・働きやすさ		⑩光環境	1.0	0.60	1.0	0.50			-
2 方位別開口	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	3.0	0.30			-
3 星光利用設備	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.20			-
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.50			-
1 星光制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	2.0	1.00	4.0	1.00			-
3.3 照度	快適・働きやすさ		⑩光環境	1.0	0.15	-	-			-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	1.0	0.25	-	-			-
4 空気質環境				3.5	0.25	3.8	1.00			3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.58	4.0	0.63			-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00			-
4.2 換気				2.8	0.38	3.6	0.38			-
1 換気量	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.47	3.0	0.33			-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	1.0	0.06	5.0	0.33			-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.47	3.0	0.33			-
4.3 運用管理				3.0	0.04	-	-			-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	-	-			-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	1.00	-	-			-
Q2 サービス性能					0.30					2.8
1 機能性				2.5	0.40	2.6	1.00			2.5
1.1 機能性・使いやすさ				2.7	0.40	3.0	0.60			-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ		⑫機能性	1.0	0.06	-	-			-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ		⑫機能性	1.0	0.06	3.0	1.00			-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.87	-	-			-
1.2 心理性・快適性				1.1	0.30	2.0	0.40			-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.06	3.0	0.50			-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ		⑫機能性	2.0	0.06	-	-			-
3 内装計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	1.0	0.87	1.0	0.50			-
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-			-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ		⑫機能性	4.0	0.50	-	-			-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
2 耐震・信頼性				3.2	0.30	-	-			3.2
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-			-
1 耐震性	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-			-
2 免震・制振性能	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30	-	-			-
1 躯体材料の耐用年数	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-			-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-			-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	1.0	0.10	-	-			-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-			-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-			-
1 空調・換気設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2 給排水・衛生設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-			-
3 電気設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-			-
4 機械・配管支持方法	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-			-
5 通信・情報設備	防災		⑮信頼性	2.0	0.20	-	-			-
3 対応性・更新性				2.9	0.30	2.9	1.00			2.9
3.1 空間のゆとり				1.6	0.06	2.8	0.50			-
1 階高のゆとり				2.0	0.60	4.0	0.60			-
2 空間の形状・自由さ				1.0	0.40	1.0	0.40			-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.06	3.0	0.50			-
3.3 設備の更新性				3.0	0.88	-	-			-
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-			-
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-			-
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-			-
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-			-
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-			-
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2017年版v.1.7

(仮称)横浜プロジェクト

バージョン

CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目 <非住宅> <集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
						Q3 室外環境(敷地内)		-
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり ⑩生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり ⑨まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40	-	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり ⑫地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ ⑬敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能 ①建物の熱負荷抑制	4.1	0.20	-	-	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能 ②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	3.6	0.50	-	-	-	-	3.6
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	0.19	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	-
集合住宅の評価		3.0	0.81	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	-	-	2.9
1 水資源保護		2.2	0.20	-	-	-	-	2.2
1.1 節水		1.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減		3.1	0.60	-	-	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.22	-	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	-	-	-
1	消火剤	-	-	-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	4.0	0.50	-	-	-	-	-
3	冷媒	3.0	0.50	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		3.7	0.33	-	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	-	-
3	交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-	-	-
1	騒音	3.0	0.50	-	-	-	-	-
2	振動	-	-	-	-	-	-	-
3	悪臭	3.0	0.50	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	-	-	-
1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-	-	-
2	砂塵の抑制	3.0	-	-	-	-	-	-
3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	0.70	-	-	-	-	-
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-	-	-
上記以外の重点項目								
<事務用途>								
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ ⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-	-	-
<住宅用途>								
健康と安心								
1	化学汚染物質の対策	健康・安心 ⑥健康対策	5.0	-	-	-	-	-
2	適切な換気計画	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-	-
3	結露・カビ対策	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-	-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心 ⑦防犯対策	1.0	-	-	-	-	-